

おじいちゃん まっててね



さく・えまなめ



ぼくは おじいちゃんが好き



おじいちゃんは
いろんなところに
つれていってくれるし、
子どものようになって
いっしょにあそんでくれる。

料理がじょうずで、
ぼくはおじいちゃんの
つくってくれる
ハンバーグが大好き。



絵だってじょうずなんだよ。
大好きなヒーローも
いっぱいいてくれる。



だからぼくはおじいちゃんちにあそびに行くのがいつも楽しみ。

あつい夏の日、ぼくの5才のたんじょうび
おじいちゃんが大きなプレゼントをくれた。



小さくて、目のくりくりした、
かわいい子犬だ！



「ちゃんと自分でおせわするんだよ。」

「うん、たいせつに育てるよ。ありがとう。」

ちいさくて丸っこいから、
まめたろうと名付けた。

おとうとができたみたいで
ぼくはほんとうにうれしかった。



冬になったある日

おかあさんに電話がかかってきて、

とつぜん2人で

病院に行くことになった。



おじいちゃんが病気でたおれたんだ。



なおるまでに すこし時間がかかるみたい。

「ごめんね。しばらくは前みたいに
あそんであげられないよ。

元気になったら だいすけと まめたろうと
いっしょにあそびたいなあ。」

「うん、ぜったいだよ。はやく元気になってね。」





いつものやさしい顔だったけど、
すこしさみしそうだった。

「心配しないで、だいすけが
ちゃんといい子にしていれば
おじいちゃんはきっと元気になるわ。」

いい子にするってどうすればいいんだろう。

その夜、ぼくは かんがえた。



もっとおとなにならなきゃ、
にがてなものも なくさなきゃ。

「まめたろう、ぼくがんばる。」



おじいちゃんにはやく会いたくて、
ぼくはたくさん

自転車のれんしゅうをした。

ごはんもいっぱい食べた。

にんじんも ピーマンも

食べられるようになった。



まめたろうのおせわも

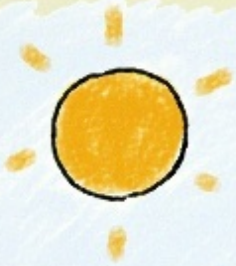
忘れずに続けた。

お手だってできるように

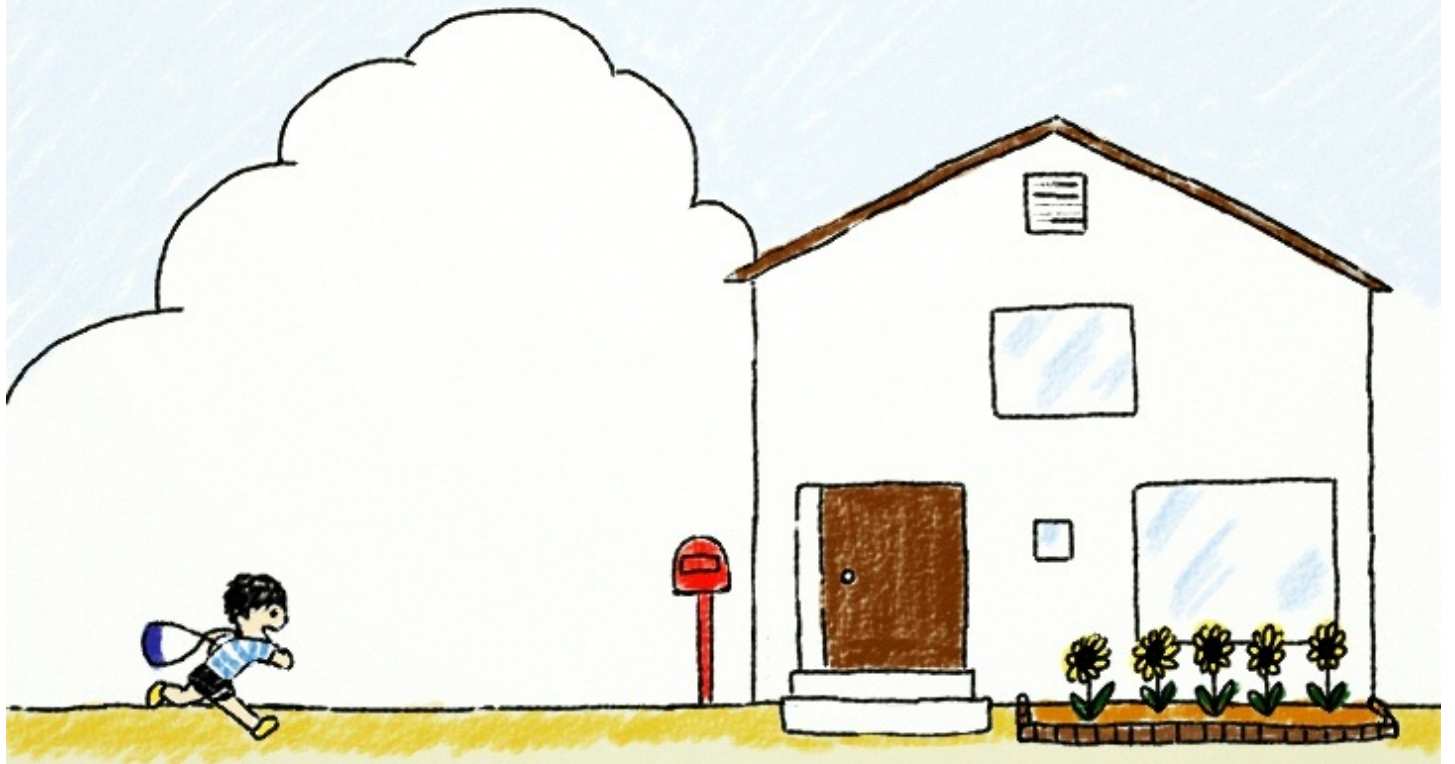
なったよ。



小学生になってはじめての夏休みがきた。



おかあさんに電話がかかってきた。
おじいちゃんがすこし元気になって
退院できたんだって！



おじいちゃんに会いにいこう。

自転車ものれるようになったし、

おじいちゃんちまで

のって行って見せてあげるんだ。



道だって今までずっと車のまどから

見てたもん、大丈夫。



じゅんびをしよう。

まよわないよう地図をつくらう。

もっていくものは、すいとうと、

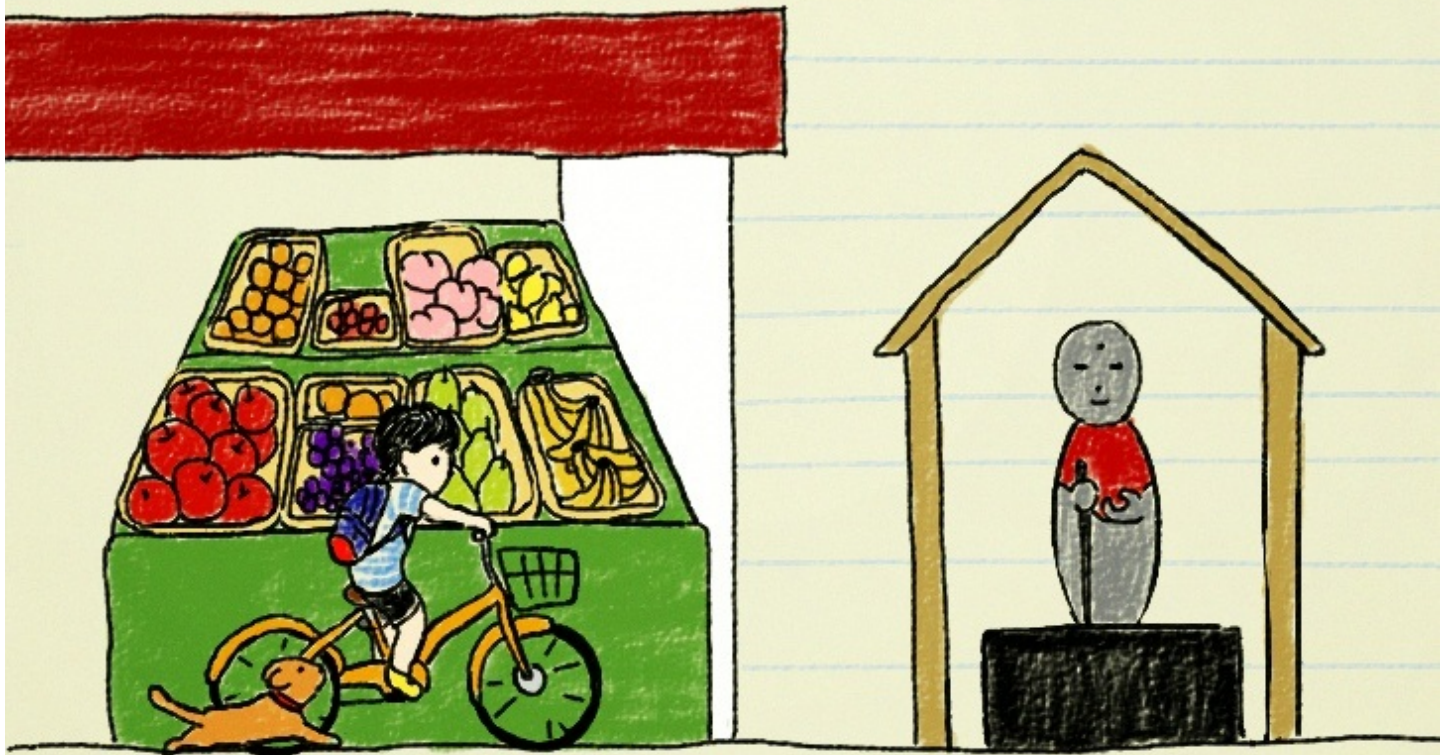
まめたろうのおやつと・・・

あと何があるかなあ。



さあ、出発！
まめたろうもおいで。

よいしょ、よいしょ。
地図をたよりに どんどんすすむよ。



おじいちゃんびっくりするかなあ。

あ、いつも車から見ていた川だ！

大きいなあ。

あそんでいる みんなも気持ちよさそう。



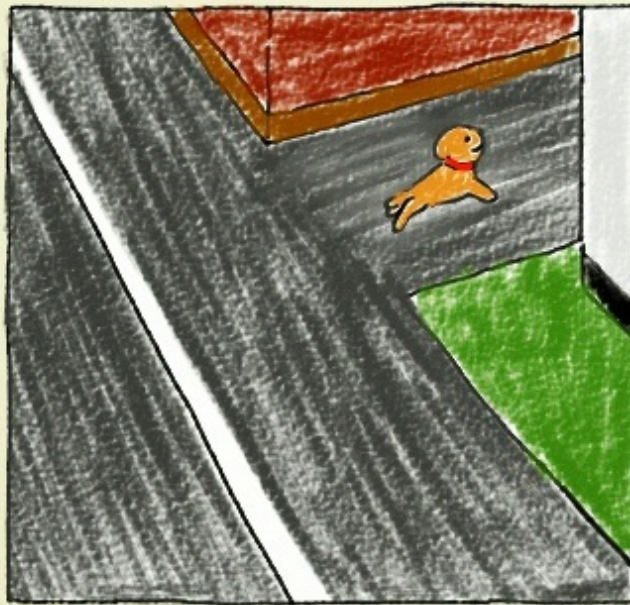
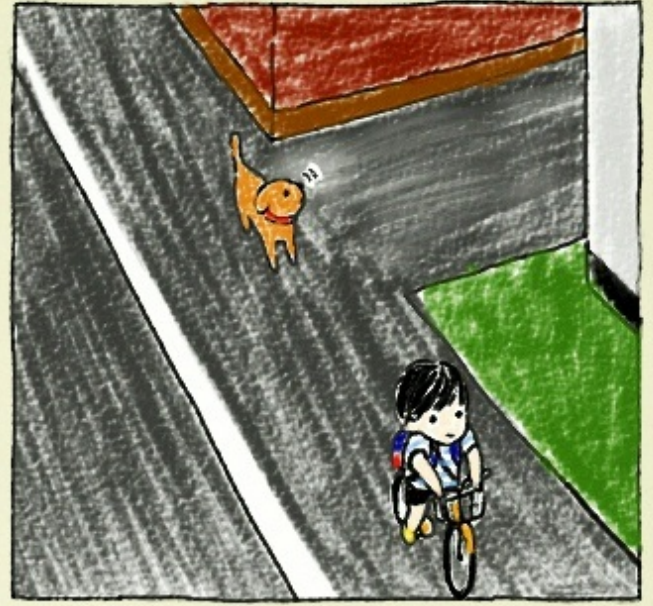
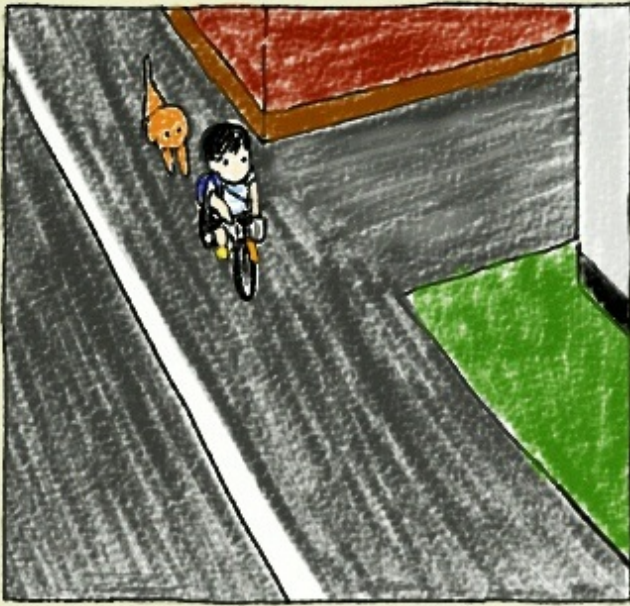


スーパーが見えてきた。

ジェットコースターみたいな

ちゅうしゃじょうがかっこいいなあ。

このこうさてんを曲がるよ。



よいしょ、
よいしょ・・・。

あれ、まめたろうがいない。
どこにいったの？





あ、いた！



かってにどこかにいっちゃだめだよ。



いいにおい。まめたろうおなかがすいたんだね。

おこづかいも持ってきたし、

たいやき買ってきゅうけいしようか。



さあ進まなきゃ！

よいしょ、よいしょ。

わあ、雨がふってきた。

でも大丈夫、ちゃんとカッパを
もってきたもん、へっちらだよ。



よいしょ、よいしょ

よいしょ、よいしょ

よいしょ、よいしょ

よいしょ、よいしょ

なかなか地図のめじるしが見えない。
みちをまちがえたかなあ。



日もくれてきた。

おなかも すいてきた。

足がいたいよう、おかあさん、おじいちゃん・・・

ありがとう まめたろう。
ここにいても しかたがないよね。



さあ、立ち止まらずにすすもう！



よいしょ、よいしょ・・・

あ！いつものキリンさんだ！

あとすこし、よいしょ、よいしょ・・・。



きのこの たてものが見えてきた！

この坂をのぼれば

おじいちゃんちだよ。



ピンポーン

「おや、こんな時間に誰がきたかな？」

ピンポーン

「はあい、どなたですか？」



「おじいちゃん！」



